

学校再編室

1 閉校校の備品の有効活用

令和3年度で閉校となった旧東吉川小学校・旧星陽中学校の備品を整理し、学校や公民館等へ分配した。

	内容		学校名	実施日
1	備品整理	閉校校に残っている備品を整理する。	旧東吉川小 旧星陽中	4月3回、5月2回 6月3回、7月1回 11月2回、2月1回 (計12回)
2	備品分配	使用可能な閉校校の備品を学校・公民館等へ分配する。	旧東吉川小 旧星陽中	4月2回、6月3回 7月5回、8月2回 9月4回、10月1回 11月1回、2月2回 (計20回)
3	図書分配	使用可能な閉校校の図書を学校・図書館等へ分配する。	旧東吉川小 旧星陽中	10月2回、12月2回 (計4回)

2 小中一貫教育推進事業

従来の小学校6年間、中学校3年間という枠組みから、義務教育9年間を一体的に捉えた新たな視点で、つながりのある教育を進めていくことが求められている。

三木市では、令和3年度を「小中一貫教育元年」と定め、市内の全学校において、小中一貫教育の推進に取り組んでいるところである。

また、将来的に市内の学校を施設一体型の小中一貫教育を行う学校に再編するという方向性について、調査研究を継続して行っている。

(1) 三木市小中一貫教育推進協議会の設置

三木市がめざす子どもを育成するために、学校、保護者及び地域の意見を踏まえながら、小中一貫教育の教育内容や教育環境について課題を整理し、取り組むべき具体的な方向性について検討するための協議会を設置した。先進校視察を含め、年間6回の協議を経て、1月に協議会から「三木市の小中一貫教育推進に係る意見書」を受領した。

(2) 中学校区における「めざす15歳（12歳）の姿」の作成

児童生徒の実態や地域の特色を踏まえ、9年間を見通した学びの在り方や生徒指導上の支援方法の共有をめざし、小・中学校教員の協働による「めざす15歳（12歳）の姿」を作成した。

(3) 小中一貫教育実践推進校（別所中学校区・吉川中学校区）による取組実践

1中1小の環境を活かし、積極的な児童生徒や教員の交流をはじめ、9年間を見通した教科カリキュラムの素案作成など、より実践的な教育活動に取り組む中で、小中一貫教育の視点に立った成果や課題を明らかにした。

(4) 小中一貫教育ワーキンググループによる協議

各中学校区から選出した代表教員6名で組織する小中一貫教育ワーキンググループを立ち上げ、小中一貫教育の推進に向け、校種を越えて、課題の確認や解決に向けた方向性等について、年3回にわたって意見交換や協議を行った。

(5) 小・中学校教員交流研修の継続実施

小学校、中学校及び特別支援学校の教員が、中学校区内の異校種の学校において研修することを通して、相互の教育活動及び教育内容等についての理解を深めるとともに、教員の資質及び指導力の向上をめざすことを目的とする小・中学校教員交流研修を継続実施した。

区分(項目)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度(目標)
異校種の学校で交流研修を行った教員数	17人	31人	44人(予定)	累計185人

※令和7年度までに、全教員の約半数に対し実施を予定している。

(6) 先進地視察

	視察先	視察内容	視察日
1	宍粟市教育委員会	併設型小・中学校の設置プロセス 教員連携の在り方やカリキュラム編成のポイント	6月16日
2	吉野町立吉野さくら学園 (吉野町立吉野小学校・ 吉野町立吉野中学校)	施設一体型小中一貫校建設に向けてのプロセス 施設一体型小中一貫校の施設設備の見学	6月27日
3	加東市立東条学園小中学校	施設一体型小中一貫校の施設設備の見学	8月25日
4	姫路市立白鷺小中学校	実践研究発表会に参加 授業参観及び教科分科会に参加 施設一体型小中一貫校の施設・設備	9月30日
5	京都市立京都御池中学校	OGGT4校合同研究発表会に参加 授業参観及び教科分科会に参加	11月4日
6	飯塚市立小中一貫校 幸袋校 飯塚市立小中一貫校 穎田校 飯塚市立小中一貫校 穂波東校	小中一貫教育全国サミット in 飯塚に参加 授業参観及び教科分科会に参加 施設一体型小中一貫校の施設・設備	11月4日 11月5日
7	明日香村立明日香小学 校・明日香村立聖徳中学 校	幼小中一貫教育第3回実践発表会に参加 授業参観及び教科分科会に参加	11月18日
8	千種学園(宍粟市立千種 小学校・宍粟市立千種中 学校)	併設型小・中学校における具体的な教育活動の視 察	11月24日
9	亀岡市立亀岡川東学園	施設一体型小中一貫校建設に向けてのプロセス 施設一体型小中一貫校の施設設備の見学	12月21日
10	高砂市立高砂中学校	効果的な教員研修の在り方についての意見交換	12月27日
11	岡山市立あしもり学園 (岡山市立足守中学校・ 岡山市立蛍明小学校)	施設一体型小中一貫校建設に向けてのプロセス 施設一体型小中一貫校の施設設備の見学	1月31日
12	岩国市立東小学校・東中 学校	施設一体型小中一貫校建設に向けてのプロセス 施設一体型小中一貫校の施設設備の見学	2月14日

3 コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の導入

近年、学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、「社会総掛かり」で子どもを育成することが

求められている。

コミュニティ・スクールとは、学校内に校長（教職員）と地域・保護者等の代表者からなる「学校運営協議会」を設置している学校のことであるが、平成 29 年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、学校運営協議会の設置が各教育委員会の努力義務とされた。

三木市においても、学校の作戦本部や応援団となり、子どもの育成に地域・保護者・学校が一体となり協働していく仕組みを作る必要があり、「地域とともにある学校づくり」を進めていくために、学校運営協議会を設置することとした。

(1) 令和 5 年度導入予定校及び地域や関係団体への事前周知活動

令和 5 年度導入予定校	実施日	内容
吉川小学校、吉川中学校 (小・中合同型)	6 月 14 日	吉川町まちづくり協議会 吉川公民館長
	9 月 27 日	
緑が丘中学校	7 月 11 日	緑が丘町まちづくり協議会 青山まちづくり協議会 志染ふれあい委員会 青山公民館長 志染町公民館長 緑が丘町公民館長 志染ふれあい委員会
	7 月 23 日	
	7 月 28 日	
	9 月 27 日	
	10 月 12 日	
	10 月 21 日	
	11 月 28 日	

今後の導入予定校については、令和 6 年度に別所小・中学校（小中合同型）と自由が丘中学校に、令和 7 年度には三木中学校と三木東中学校に順次導入を進め、市内全中学校において、コミュニティ・スクールを導入していく予定である。

(2) 学校関係者及び委員候補者への研修

コミュニティ・スクールの意義や必要性、良さについて、学校関係者や地域の学校支援者の理解促進を図ることで、コミュニティ・スクールの円滑な導入を進めることを目的とした研修会（理論、実践）を 2 回実施した。